

8th
Mandolin
Concert

1970



八瀬のかま風呂 空中風呂

HOTEL AT HOT SPRING

名 泉
名 庭

水 晶 閣

御 宴 会
御 婚 礼
忘 年 会
新 年 会

に皆様の水晶閣が

心よりお待ちしております。

甲府市中央四丁目1-17

TEL (33) 3 1 8 5 (代)
サ イ ワ イ

第 8 回

定期演奏会

山梨大学マンドリンクラブ

1970年11月7日(土)

県民会館大ホール

後援 山梨大学工学部学友会

協賛 山梨日日新聞社

会 委 託 山 梨 回 報 送

山梨日日新聞社
会 委 託 山 梨 回 報 送

本日は、御忙しいなか、私達の演奏会に御来場下さいまして誠にありがとうございます御座居ます。

私達のクラブでも36年11月の創立以来今年で10周年を迎えました。また今日はこうして、第8回定期演奏会が開催でき、私達にとってこの上ない喜びです。これも偏に皆様方の暖かい御支援の賜と部員一同心から感謝致しております。私達は、春・夏・秋の合宿、また日頃の学内での活動などを通して、サークルという小社会の中で浮き彫りにされる自己をみつめ、真の音楽追求により、70余名限りない友情で結ばれようと今日まで若い情熱を傾けてまいりました。まだまだ技術的にも人間的にも未熟ではありますが、多少なりとも私達の熱意を御理解いただければ幸いです。

これからも、音楽に親しみ豊かな人間性を求め精一杯努力していきたいと思っております。今後とも山梨大学マンドリンクラブに暖かい御支援と厳しい御批判を宜しく御願ひ致します。

最後になりましたが、常日頃から献身的な御指導及び御協力をして下さる、飯島国雄先生、比留間きぬ子先生はじめ、諸先生方、先輩の皆様、大学当局、学友会並びに関関係会社に対して厚く御礼申し上げます。

山梨大学マンドリンクラブ

部長 秋山延義

第8回定期演奏会によせて

工学部長

林 武

十和田湖畔に裸婦像を作った詩人高村光太郎の作品の中に「絵画は色彩の音楽、彫刻は線の音楽、詩歌は言葉の音楽である。音楽は生の最もアンチイムな情調をそのまま表現するに一番力あるものである事は誰でも首肯する事である。音楽は人間の考え出した物の中で最も功妙なものであると、私は信ずる」と書いている。

詩人は仲々表現がたくみである。私のように自分の目で確かめて物事の真理を理解する様に育った者には表現の内容を適確に捕えることはむずかしい。しかし上の文の示す所は人間の作った芸術的創造物は人間の感覚に訴えて種々の意味において音楽となることを意味しているように思われる。音楽は当然吾々人間生活に於いて身近に存在すべき筈のものである。

私の学生時代は音楽は今日のように大衆的のものではなかった。独唱会やオーケストラ演奏会もあったが、それも回数が少なく、また限られた人々しかそれに接触出来る機会が無かったのである。しかし現代は全くその様子を変えている。音楽自身が本質的に大衆化されたためであろうが、またラジオ、テレビの普及したためでもあろう。音楽は全く誰にでも身近なものになっている。

大学生生活は一方では学問を習得することが必要であるが、又一方若いエネルギーを音楽に注ぐことも大切なことであると考えます。音楽を演奏することによって精神的な、または情操的な面の向上を来たすことによって人間形成に役立つことが大きいと思うので、マンドリンクラブの諸君の普段の努力は極めて有意義のものである。今回の演奏会の開催に当たり、その努力に敬意を表すると同時になお今後の精進を期待する。

山梨大学マンドリンクラブ顧問

牧野 洋

芸術の秋、音楽の秋……そうしてマンドリンクラブの学生にとっては定演の秋がやってきた。定期演奏会は1年間の練習の成果を発表する大切な行事である。

大学のクラブの常として、毎年毎年メンバーが入れ換わる。ベテランである4年生が抜け、代りに新人が入ってくる。つまり昨年・一昨年と比べて団員のレベルを規定する条件は変わらない。その変わらない条件のもとで昨年・一昨年よりも良い演奏をしたい。してもらいたい。そうになっているだろうか。多少の不安と多大の期待を抱きながら定期演奏会を迎えるわけである。

やや端正な表情を持ったクラシックからの編曲、マンドリンの特性をフルに生かした緩急自在のマンドリン・オリジナル、それに肩のこらないポピュラーな小品——それぞれに聞き手を楽しませてくれることであろう。内容の豊富な演奏会になることを期待している。

祝 第八回定期演奏会

甲府市中央一丁目12番11号

株式会社

山梨セメント商会

紹介

比留間きぬ子先生

我が国マンドリン界の最高権威者で、東京に「比留間マンドリン音楽学院」を開いておられ、一昨年から兵庫県芦屋市にも教室をもたれて関西の人々への指導にもつくされております。又一方、ラジオ、テレビ、映画音楽など非常に多方面に御活躍中です。

先生はこのマンドリンという可憐な楽器に私達が深い理解と愛情をよせるよう、常に教示されます。先生は山梨大学マンドリンクラブ常任指揮者飯島国男の師にあたり、梨大マンドリンクラブを御指導下さっております。



飯島国男

マンドリンを比留間きぬ子、ヴァイオリン及びヴァイオラを福井直弘、チェロを中島方、指揮を沖不可止に師事。

昭和23年 飯島マンドリン四重奏団結成。

昭和26年 飯島弦楽四重奏団結成。

昭和30年2月 JOKG 管弦楽団設立、常任指揮者となる。

4月 NHK オーディションに合格。

10月 松竹映画「新婚白書」の音楽担当。

12月 オペラ「手古奈」上演。編曲並に指揮。

昭和31年 労音の招きに全国各地を演奏旅行。

昭和32年 山梨県全域の音楽団体を統合、横の連結機関として山梨音楽文化連盟が結成され、理事長に就任。

昭和33年 オペラ「鷹の泉」上演。編曲並に指揮。

比留間マンドリンアンサンブルの客員として、ラジオ、テレビ、レコード等に活躍していたが、現在は山梨県下のプレクトラム音楽普及並に指導に尽力している。

(日本マンドリン連盟関東支部委員 日本弦楽指導者協会会員)



御会合・パーティーなど申し受けております。
ご希望に依りテーブルマナーなど御指導致しております。
御利用下さいませ。

営業時間 11:30 ~ 9:00

休日 毎月第2・第4月曜日

キャンドルサービスを行なっています。

スナック「カバリエ」も御利用下さい。(セントラルボール内)

cavalier
Restaurant **カバリエ**

山梨県甲府市中央一丁目6-6

(丸忠ビル二階)

TEL (35) 1276-7

PROGRAM

I

指揮 石井 康 裕

- **Le Calif de Bagdad** F. A. Boieldieu
(OUVERTURE)

【バグダットの太守】序 曲

- **In A Persian Market** A. W. Ketelbey

【ペルシャの市場にて】

- **Eine Kleine Nachtmusik** W. A. Mozart
(SERENADE No. 13 in G major köchel No. 525)

【アイネ・クライネ・ナハトムジーク】

II

◇ Mandolin Solo

- **Rêve Oriental** D. C. Dounis
(重音式無伴奏)

【東 洋 の 夢】

◇ **Mandolin Solo**

- **Capriccio Spagnuolo** C. Munier

【スペイン風綺想曲】

マンドリン 貞 弘 丈 佳
ギター伴奏 安 藤 恵 一

◇ **Gitarre Konzert**

指揮 石 井 康 裕

- **Konzert für Gitarre und Zupforchester** A. Vivaldi

【ギター協奏曲 ニ長調】

ギター独奏 嶺 木 直 人

III

指揮 飯 島 国 男

- **Lola** H. Lavitrano

(OUVERTURE)

【ローラ】序曲

- **Impressiohi Hotturhe** D. DE. Giovanni

【夜の印象】

- **Sulla Piana Della Melia** G. Manento

(SINFONIA)

【メリアの平原にて】シンフォニア

I クラシック

指揮 石井康裕

序曲 バグダッドの大守 F. A. Boieldieu

フランソワ・アドリアン・ポアルデュエ (Francois Adrien Boieldieu 1775~1834) は、19世紀初めフランスで活躍した喜歌劇作曲家で、豊かなメロディーと軽快さをもった喜歌劇を数多く発表し、当時かなり人気を博していた。

彼の歌劇は、今日ではほとんど上演されないが、「バグダッドの大守」「白衣の佳人」などの序曲はしばしば演奏され、大衆的な名曲として、また編成の小さなオーケストラ用の曲目として愛されている。曲の構造はゆるやかな序奏と、ソナタ形式で書かれた軽快な主部とからなっているが、ここに用いられている旋律が劇中からとられたか否かは詳かではない。

【序奏】 Andantino ニ長調 八分の六拍子 三部形式……マンドラ、マンドチェロ、弦バスによる空虚五度のオルガン点を伴奏として、オーボエとマンドリン二部がゆるやかな美しい旋律を奏でる。これはクラリネットを加えてくりかえされ、さらに中間は木管がオルガン点を受けもち、弦楽器群が旋律を歌う。そしてオーボエのカデンツァをはさんで初めの旋律が全木管とマンドリン二部で示され、完全終止を告げる。

【主部】 Allegro ニ長調 四分の四拍子 ソナタ形式……軽快な部分で、第一主題は第一マンドリンが中心になって示す。これは反復されたのち、いきなり打楽器を加えた全強奏となって、はなやかな経過部に入る。それがいったん落ちつくと、イ長調の第二主題が第一マンドリンで流れるように歌い出される。そして最後に木管楽器によるきらびやかな結尾主題が奏でられ、力強い後奏を作って短い展開部に入り、やがて第一主題が再現する。再現部は、第一主題に続いて型通り主調であるニ長調に戻された第二主題と結尾主題が示され、はなやかな終結部で曲を終る。

ペルシャの市場にて A. W. Ketelbey

ケテルビーは幼年時代から作曲の天分に恵まれ、11歳の時に作曲したピアノソナタはエルガーの称賛を受けた。16歳の時、セント・ジョン教会のオルガニストとなり、その後、ピアノ、弦楽器その他の演奏を身につけ通俗的な管弦楽曲の作曲で名をあげ、有名なものに「ペルシャの市場」や「中国の寺院の庭で」などがある。このペルシャの市場は、東洋風の行進のリズムにのって、らくだの群の行列、人ごみの中の乞食の声、従者をしたがえた女王の行進、手品師や蛇使いの音楽、大守のお通りなどごったがえす町のにぎわいを描き、そのあと、乞食、女王の姿をほのめかしてから、行進がしだいに遠のいていき曲をとじる。

アイネ・クライネ・ナハトムジーク W. A. Mozart

モーツァルトは1756年、オーストリアのザルツブルグに生まれた。6歳より作曲を始め、ピアニストとしてヨーロッパ各地を旅し、のちウィーンに住んで、演奏と作曲に活躍、古典派器楽様式を完成した。

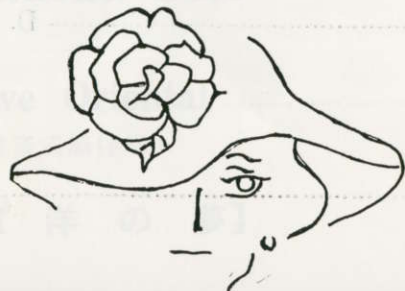
Eine Kleineというのは「小さい」という意味で「小夜曲」とも言われる。この曲はモーツァルトが歌劇「ドン・ジョヴァンニ」の作曲中にウィーンで書いたもので、1781年8月10日に完成された。彼の書いたセレナードの中で最後のもので、最も親しまれていて、内容的にもすぐれた作品である。

第一楽章 アレグロ ト長調 四分の四拍子……ソナタ形式で速いテンポの明るい曲である。

第二楽章 アンダンテ ハ長調 二分の二拍子……ゆるやかで優美なロマンス調である。

第三楽章 アレグレット ト長調 四分の三拍子……やや速いさわやかなテンポで繰り返りひろげられるメヌエットである。

第四楽章 アレグロ ト長調 二分の二拍子……快速ではちきれそうな躍動感を感じさせる。



florist

ORION FLOWER

KOFU-ORION DŌRI-KADO

TEL (33) 9934 (24) 3646

Ⅱ マンドリン独奏及びギター協奏曲

東洋の夢 D.C. Dounis

はてしなき荒野に立つ若者の胸を去来するものは…… 遠く消えゆく角笛の音色……

デメトリウス・ダウニスは1895年ギリシャに生まれ、15才の時イタリークレモナのコンクールに特別名誉金牌を受けた。演奏家なりに彼の作品には豊かな技巧がたくみにおり込まれている。この曲は作品12番で、マリア・カラーチェに捧げられたものである。

スペイン風綺想曲 C.Munier

マンドリンの父と云われるカルロ・ムニエルは演奏家であり、教師であり、又優れた作曲家であった。1859年イタリーに生まれ、マンドリンの音楽的価値を高揚した第一の功労者である。中でも室内楽と独奏曲は彼の名を不朽ならしめる力を持っている。作品276のこの曲は彼の円熟期に於ける傑作で、極めて自由奔放な手法と南欧的明るさを持つ美しい感情に満ちた旋律は彼の代表的名作と云えよう。

ギター協奏曲 二長調 Vivaldi Antonio

アントニオ・ヴィヴァルディは、ヴェネチアのサン・マルコ寺院のヴァイオリン奏者の父ジョヴァンニ・パティスタからヴァイオリンと作曲を習い、またジョヴァンニ・レンツィの弟子でもある。

彼は多作家であって、その作品全てが同一の水準ではない。しかし協奏曲はかれの作品の中心的位置を占め、ソロコンチェルトの分野ではさまざまな弦楽器および管楽器のために作られている。彼の作品はイタリアの器楽曲らしく、みごとな情感をもっている。今日演奏される曲は、もともとリュートのための協奏曲であるが、ギターで演奏されることが多い。曲は、急・緩・急の三楽章からなっている。

第一楽章 アレグロ・ジュスト……はなやかな合奏で主題を奏し、ギターの独奏がエピソード風のきらびやかな楽句で現われる。この合奏と独奏とが鋭くコントラストされて数回交替して鮮やかな印象を与える。

第二楽章 ラールゴ……静かなマンドリンアンサンブルをバックにギターは甘美なメロディーを爪弾いていく。

第三楽章 アレグロ……再び合奏部の力強いメロディーとギターの独奏の交替によって舞曲調のはなやかな楽想をもりあげつつ、リズムに進行する爽やかな終曲である。

おしゃれ洋品から下着まで 何でもそろう店

洋品の店

山 十

甲府市丸の内二丁目9-10 TEL (22) 2248

Ⅲ オリジナル

序曲 ローラ姫

作曲者、H・ラヴィトラーノはナポリ湾頭の美しいイジア島に19世紀の終りに生まれた。

本曲は19世紀、ヨーロッパ各都市でその艶名をうたわれた舞姫ローラ・モンティスを讃えて作った曲と伝えられている。全般的に典雅で軽快な感じをもっていて、随所に現われる Allegro の部分における軽快奔放さ、Andante の優愁繊細さは美しい対照をもって現われ、巧みに融合されており、プレクトラム楽器の特徴が十分に生かされている。

夜の印象

作曲者、ドメンコ・ド・ジョヴァンニはイタリアのポローニアの生まれで、作品には「ローマ・トリート」等のマンドリン合奏曲の他に、管弦楽・吹奏楽・オペレッタ声楽曲など広い範囲のものもある。この曲は、夜の印象そのままを幻想曲風に表わしたもので、夜の与える静けさ、寂しさ、美しく可愛らしい星のきらめきを思わせるしっとりとした情趣をもつ曲である。

メリアの平原にて

ジュセッペ・マネンテは1867年イタリアのサンニオに音楽家を父として生まれ、王立陸軍音楽学校卒業後、歩兵第60連隊音楽隊長を特命した。折りしもイタリアは全土を挙げてマンドリン音楽の興隆時代で彼も多大の関心を寄せ、吹奏楽の外にマンドリン曲を多数書いた。中でもこの曲は1909年、イル・プレットロ誌主催の作曲コンクールに受賞、一等名誉賞状を受け翌年出版をみるや、たちまちこの界の至宝的作品となったもので、プレクトラム楽器を大胆に取扱った点に彼の非凡なる手腕を見ることができる。特に第二主題における第一マンドリンの旋律と第二マンドリン、マンドラ、チェロ、ギター等の交互に現れる和音の伴奏は注目に値し、更に主題がマンドラに対照され終に第一マンドリン、マンドラが同時に対位旋律を繰返すことによって驚くべき効果を示している。革新的な豪放な作品として、この曲は他作家の作品に見ることのできない気概と力を持っている。



・新築に、改築に、電気設備の御計画は

電気に関することは是非御相談下さい。

甲府市中央四丁目5-23
TEL ☎ 1581(代表)



有限 鶴田電気株式会社
会社

入院応需

古屋眼科医院

甲府市朝日二丁目16の20 (朝日町通り)

TEL (22) 3305

作曲者紹介

◇ ジャチントラヴィトラノ (H. Lavitrano)

ラヴィトラノは、19世紀後期のイタリア、イシア島の生まれ。1938年12月16日、アルジェリアのポーナに逝いた作曲家。始めフランス人から音楽の手ほどきを受け、ナポリでパオレッティから和声と対位法を、そしてナポリ音楽学校でフォルトゥッチに学んだ。その後多くの作曲コンクールに入賞マンドリン音楽ではトリノーで「ローラ序曲」、パリーでは「セネタータ」、ミラノでは「ロマンツァとポレロ」が入賞。彼の作品にはどれも彼の定住地となったアルジェリアの明るく輝く異国情調豊かな息吹きが感じられ、革新的で大胆な手法が魅力となっている。

◇ ドメンコ・ド・ジョヴァンニ (D. DE. Giovanni)

ジョヴァンニはボローニアの人。1879年頃よりその才能を認められ、1883年には同市の Reale Accademia Filarmomica 附属の吹奏楽団の教授たちより作曲家、指揮者として充分の技量あることを証せられ、1885年には Fontara Elice に赴いて同地の新吹奏楽団設立に尽力し、1897年迄滞留、それより再びボローニアに帰り、Caste Bolognese 附の音楽団の指揮者、教授として働きながら多くの作品を書いた。これ等は各地の作曲コンクールに提出され、パレルモ、ローマ、トリノー、フィレンツェ、ボローニアに於いて受賞した。作品には管弦楽用ミサ、六声部独唱曲、オペレッタ、幾多のピアノ附声楽曲、弦楽四重奏曲、吹奏楽曲があり、マンドリン関係の作品も多数あるが、中でも「ローマ・トリノー大博覧会への序曲」、「シンプロレン随道開通祝賀の序曲」、序曲「アンデスの花」、「夜の印象」、「抒情的セネタータ」、「詩的セネタータ」、「ト調の序曲」、「小交響詩」、等は本邦でもしばしば上演される。

◇ ジュセッペ・マネンテ (G. Manento)

始め音楽家の父から、後にサン・ピエトロドマイエラの音楽学校に学んだ。トランペットを、D. Gatti 教授に、和声、対位法を最初 G. Gnavvo 教授に、後に上述の音楽学校で C. De. Nardis に学んだ。その後マンドリンの音楽学校の M. Serrono に、又、ローマの S. Cecilia 音楽学校の C. De. Sanctis 教授にも学んだ。1889年コンクールに受賞して、歩兵第60連隊吹奏楽団の指揮者となった。1905年トリノーの博覧会には800人の演奏者による大演会を指揮し、又 Lucca, Pescia, Bagni di Montecatini 等諸都市の沢山の吹奏楽団の指揮に当たった。彼は特にイタリアの吹奏楽界で著名で且つ音楽を一般化した人として敬愛されていたが、マンドリン音楽のよき理解者として数多くの芸術的作品が熱愛されている。彼の最後の作品には、op. 446「白鳥の楽園」と題する三幕のオペレッタで、興味深く非常に美しい。これは間もなく特に優れた断片を作者自身によりマンドリン四重奏に編曲出版された。1941年死亡。

洋食・喫茶・寿し

Consoli

ハイセンスの
レストラン

コンソリ

■ 出張パーティー料理 ■

本店 丸の内一丁目(旧紅梅町) 電話(33) 3135-7
南口店 湯田一丁目(旧北大路角) 電話(35) 4335-6

寝具製造 貸布団

大関わた有限公司

甲府市城東三丁目16-16 TEL ☎ 6288 代

YAMANASHI UNIV.

MANDOLIN CLUB

MEMBERS

常任指揮者	飯島国男
正指揮者	石井康裕
副指揮者	田村均
コンサートマスター	貞弘丈佳
部長	秋山延義
副部長	長谷川達雄
	新海美津子
顧問	牧野洋



部員紹介

1st Mandolin

◎貞 弘 丈 佳(工3) 阿 部 信 彦(工4) 大 野 洋 一(工4) 小 林 恭 子(教4) 内 藤 絹 江(教3)
坂 本 正 子(教2) 伊 達 貞 治(工2) 大 藤 原 光 江(教2) 山 口 正 雄(工2) 岩 田 直 行(工1)
笠 原 俊 男(工1) 後 藤 正 彰(工1) 谷 沢 貞 美(教1) 布 引 英 夫(工1) 広 瀬 貴 美 子(教1)
水 野 博 文(工1)

2nd Mandolin

◎大 宮 康 典(工3) 川 村 恭 明(工4) 佐 藤 暁 子(教4) 長 谷 川 達 雄(工3) 鈴 木 時 治(工2)
田 村 均(工2) 古 屋 和 美(教2) 吉 田 保 博(工2) 窪 田 清 子(教1) 小 林 英 美 子(教1)
小 林 義 利(工1) 田 島 愛 江(教1) 田 副 直 樹(工1) 中 村 隆(工1) 渡 辺 俊(工1)

Mandola

◎増 田 剛 徳(工3) 河 野 直 文(工4) 小 林 実(工4) 小 原 都(教4) 伊 藤 み ち 代(教3)
小 幡 修(工2) 須 田 由 美 子(教2) 広 谷 耕 作(工1)

Mando Cello

◎松 井 謙 二(工3) 中 村 四 郎(工4) 秋 山 延 義(工3)

Guitar

◎嶺 木 直 人(工3) ○安 藤 恵 一(工3) ○蔵 田 修 治(工3) 今 井 良 子(教4) 植 松 ゆ き 江(教4)
川 端 一 男(工4) 窪 田 静 枝(教4) 佐 藤 学(工4) 原 喜 美 子(教4) 村 上 た か 子(教4)
山 田 真 知 子(教4) 内 山 恵 一(工3) 長 田 陽 子(教3) 小 松 一 博(工3) 新 海 美 津 子(教3)
高 尾 寛(工3) 高 松 俊 一(工3) 花 野 芳 夫(工3) 赤 羽 巧 吉(工2) 大 倉 芳 明(工2)
鈴 木 等(工2) 中 山 広 美(教2) 池 上 清 春(工1) 小 野 隆 光(教1) 金 丸 芳 美(教1)
河 野 多 鶴 子(教1) 神 山 千 鶴(教1)

Contrabass

◎城 口 和 男(工3) 西 川 公 男(工4) 山 本 隆 志(工2) 井 上 芳 範(工1)

Percussion Instruments

◎小 松 一 博(工3) 石 井 康 裕(工3) 赤 羽 巧 吉(工2) 池 上 清 春(工1) 猪 早 逸 郎(工1)
小 野 隆 光(教1)

Flute

◎後 藤 正 樹(工2) 石 井 康 裕(工3) 猪 早 逸 郎(工1) 西 沢 昭(工1)

Clarinet

◎佐 藤 学(工4) 猪 早 逸 郎(工1)

Oboe

山 口 孝 司(工2) 【賛助出演 山梨大学管弦楽団】

以上 77名

◎ 各パート首席奏者

○ 次席奏者

パート紹介

ばあかっしょんーいんすとりのうめんと……このあまり聞きなれぬ言葉。これが我々の総称である。つまり早く言えば打楽器のことである。我々の個有名詞は、鈴、トライアングル、シンバル、スネアドラム、ティムパニー、その他、ビブラホン、オーケストラベル、カステネット、タンバリン、クラベス、マラカス、ギロ、ティンパレス、ボンゴス、コンガ、……と、名をつけきれないほど多種多様である。そして、クラシックからポピュラーに至るまで、あらゆる音楽にリズム楽器として、又ソロ楽器として用いられている。時にはやさしく、時には力強く、時には物悲しく、時には陽気に、我々は語りかける。合奏においては、他の楽器たちとかけ合い、他を引っ張り、そしてつつましく他を引き立てる。

この我々を打ち鳴らしてくれるのが、このメンバーである。彼らの出身は、広島、兵庫、大阪、京都、静岡、長野といろいろである。パートも、ギターやフルート、クラリネット等とかけもちであるが、変なヤツばかりそろっている。しかし、このパートはたいへんまとまりがある。

2nd Mandolin

我が2ndパートは梨大マンドリンクラブの縮図である。色々な個性の強い人間が多いのでタヌキ、キャムラ、フニャコ等あだ名も多い。女の子は4人、皆かわいらしくて女らしい。当世の風潮は女上位だそうであるが2ndパートは風格ある男性が多いので決してそんなことはない。女の子が多くても同じこと。この風格ある男性中心の2ndが柔和で、しかも厚みのある合奏をつくる。いわば女房役の勤めをはたしているのである。よく合奏には2ndは大した役目をはたさないと考えている人がいるが、決してそんなことはない。これは2ndをはずしてみた時に初めてわかる。厚みのある立体的な音を出すのが2ndである。なくてもいいようではなくてはならないのが我がパートで、2ndの充実した合奏が厚みのある合奏になりうるのである。今年2ndは全部で15人、4年2人、3年2人、2年4人、1年7人の内訳で1年生が約半数を占めている。上級生と共に毎日夜遅くまで一生懸命練習をかさねています。それでは、今宵の演奏をごゆっくりと御鑑賞下さい。

1st Mandolin

1stは、よく唄うパートです。いつも自力で唄って表現する為とその演奏態度も意欲的で、演奏に夢中になると自然に体がゆれ動いてくる傾向があるようです。旋律ばかり弾いているとそれにおわれがちですが、今年はあるべく曲を自分のものにして、唄うように努力してきました。その1stパートにもこの春7名の1年生がはいる、だいぶ若返りましたが、マンドリンを手にして半年程の者にとって、オリジナルの楽曲は、大海に浮かぶ氷山のごとく、冷光をはなつばかりで微じんも動こうとしません。

それでも夏・秋の合宿等での暗いうちからの練習と、若さでそれに対してきました。技術的にはまだまだ未熟ですが、それでも16名心を合わせて、指揮者の送る風にゆられて、なびく稲穂のような演奏ができれば幸せです。

Mandola

マンドリンは御存知の方も多いことでしょう。そこで少し紹介致しましょう。マンドの一つで、弦楽四重奏におけるビオラの役目とより一まわり、二まわり程大きく音域は1オクターブ合奏において中低音を受けもち、男性的でしています。合奏中美しいメロディーが流れてくマンドリンを手にした者は一度は弾いてみたいとあ程難しくはないものの、やはりマンドラ特有のとても足りぬくらい困難なものです。リズム感、くすことは出来ません。

我らのパートは、男性らしき女性を3人含む長、それに手の大きいこと、すべてLサイズ、す。他のパートに比べ、人数が少ないことが、います。

Conductor

合奏において欠くことのできないもの、それな技術が最高なものでも一つにまとめるといです。私と副指揮と二人のパートです。女気も目に見えない糸でもってむすばれています。み苦労です。指揮者というものはみんなの前に立き、酒も飲ましたらクラブ一番、なにをとって女嫌いということかも知れません。人員2名のです。ただ心配なのは来年、先程のべた事項に

Wind-Instruments

皆様、本日の演奏会によるごそおいで下さいました。マンドリン合奏はいかがでしょうか。ところで一寸ステージのひな壇の左側をごらん下さい。3部ではフルートのみですが、1部ではマンドリンに混ってフルート・クラリネット・オーボエの管楽器群が目に入るといいます。このうちパートとして確立しているのはフルートのみで、クラリネットはパーカッションと同様、演奏会に必要な時だけ他パートからかり出され、オーボエは管弦楽団からの賛助出演という形で成り立っています。管楽器の役割というものは、ある時はやさしく、あるときは力強い音色でマンドリンを支えることだと考えています。それを目指して頑張っているつもりですが練習中ピッチが狂っているとか、音が大きすぎるとかの非難を受け、「チンドン屋」の汚名までいただく始末です。今回の1部は例外ですが、フルートにおいては独自の楽譜がないため存在性そのものに疑問を抱きながらも何とか頑張っています。今日の演奏を隔で小さくなっている管楽器の音にも注意して聴いていただければ幸いです。

が、マンドラと聞くと少し首を傾むけることでリンオーケストラにおいて4つの大きなパート同じで、重要なパートです。楽器はマンドリンタープ低くなっています。

かもせん細な独特の音色で合奏に豊かさを増しのお聞き下さい。このパートは、多分マンこがれる程、魅力的です。テクニク的にそれ音色を把握し、音を出すことは、いくら研究しテクニク等要求され、影に苦勞の多いのまか

8人です。例外はともかく、身長の高いのが特時には、それでは困るという者もまじっています。パート内を和気あいあいとしたムードにさせて

Mando Cello

マンドチェロ この楽器は、いわばマンドリンの親玉であります。大きさはマンドリンの3倍くらいあり、音域はマンドラよりも五度低く、その奏法技術たるや非常に難しいものです。C. G. D. Eの弦を各2本づつ張り、これら8本の弦から隘れる音色は、ある時は甘く、優しく、語りかけ、ある時は豪快に鳴り響き、又ある時は物悲しく、人の心に忍込んでいきます。この楽器をうけもつのがわれら精鋭梨大健児3人です。この3人、皆個性豊かで心の内に何物かを秘めた男たちであります。このガサツな3人の男の手にかかったマンドチェロのすばらしい音色を心ゆく迄お聞きください。

はなんととっても、指揮者ですよ。いくらみんな点では一番難かしく、又やりがいのあるものなく淋しい一面がありますが、どのパートともんなテクニクが抜群なので、まとめるのに一つのでみんなよりも容貌も良く、勉強も一応でも非のうちどころなし。ただ一つ欠点といえは少ないパート、指揮こそなくてはならない存在適する副指がまだみつからないことですか。

Guitar

マンドリンクラブにおけるギターの存在が薄いと思われがちですが、決してそんなものではないのです。あの固い音のするマンドリンと、この甘い音色のギターとの調和でもって合奏というものがなっています。1年生から4年生まで26名。この26の音が指揮棒に合わせ、強く、弱く、魔法のように自由自在に変化します。それによってマンドリンの旋律が生きるわけです。それこそ縁の下力もちであります。前にものべたようにギターパートなくして、このクラブはなりたないのです。又、個人的には、独奏曲にも手をつけ、部内発表会などで目をみはる演奏を見せてくれます。たとえば、いつでしたか、5人目の人がソルの魔笛を演奏したのは、驚きました。今回、合奏中ギターパートに耳を傾むければその技術が少しでも感じとられると思います。最後に一つ、マンドリン合奏に欠くことのできないもの、それがギターパートです。

Contra Bass

木立ちは、風にふるえ、赤茶色になってしまった木の葉は音もなく散ってゆく。着古したマキシコートを身にまとい、背を丸め、冷たくなった手をポケットにつっこみ、男は荒野をさまよひ続ける。路地裏のジャズ喫茶で聞いたあのベースの音が、心の中で低く響いている。その低い音色は彼のいたたまれない気持ちを含みこめてくれた。幼いころ母の胸に抱かれ安らかに眠った日々を思い出させた。さて皆様、あなたは、低音の魅力に陶醉した経験があまりですか。ベースの低音、この恍惚感、それをソウルで感じる事が出来たら、もうベースの虜です。あなたをエクスタシーの世界にお連れする使者は、我々ベースパートです。私たちは時として泣きたくなるほどの孤独に陥ち入ることがある。そんな時一人静かにベースを弾く、甘く、せつなく、すり切れるようなやるせない響き、心の中はなごみ、過ぎ透っていく。そしてベースを弾くことが楽しくなり、ベースに私たちの心が映る。曲の高まりと共に、ベースが大きく振れ、ベースが叫ぶ、そして曲はクライマックスに、ベースが最後の絶叫を上げた時、曲は終る。あなたは想像したことがありませんか、低音の無い音楽を。それはきつと、ドラを入れない麻雀の様なものではないでしょうか。そんな音楽にならないためのバックボーン、それが我々ベースパートの役目であり、誇りでもあるのです。クラブの中で、最も団結が強く、練習熱心、何をするにも率先して頑張る四人の男たち、それが我々ベースパート。だもんネ。それでは、我々の豪快なそして繊細なベースの魂をお聞きください。

道 草

日本晴れの空の下大きく手をふってそよ風をかきわけ、明るい陽ざしを体イッパイにうけてかろやかな足どりで、今日も私の所へやってくる彼女、彼女が私の扉を開けると心がパッとほぐれてくる。私は彼女が好きだ。私の心をほぐしてくれる。

私の扉を締めて彼女が出ていった。今日も昨日の服と異っていた。清らかな感じのするあの人にはどの服も自分の主人に満足を感じさせ、私の心に清らかな風を送ってくれる。そんな彼女が出ていった。明日もまた会いたいな。

美しい言葉、やさしい声、心に一輪の可憐な花が咲くように私をうっとりさせ、やさしくこだまする。私も彼女と話をしてみたい、そして聞きたい、彼女の美しい言葉を。

すさまじい音が私をゆさぶった。見るとやっぱりあいつだった。私はあいつがきらいだ。あいつはいつも私の心をいらだたせ、疲れさせ、もみくちゃにしてしまう。そして嵐のように通りすぎていく。

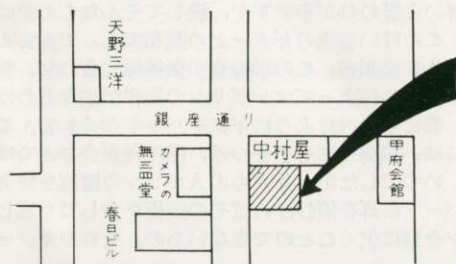
ノックの音が聞こえた。しばらくして彼女は静かに私をかなではじめた。無口な彼女、だれも彼女に気がつかないけれど、彼女は楽しそうに私に接してくる。そして何物をも眼前から消去して、私に指をかける。彼女の指はいつも清潔で、あたたかい。

彼女は今日も話している。ブツブツ キャキャ フフキャキャ クク グワ グワ チャ チャ…………… 明るくてけっこう。平和な感じ、幸せそのものだワ、という感じでこの大宇宙をふるわせる彼女の口々……………。そんな彼女が去っていった。しかし明日もまたあの大きなバラの花は満開に咲きほこるであろう！

文集「あひる」より

Art アートコーヒー 喫茶室

甲府県庁前昇仙堂ビル二階 TEL (33) 7304



ジョナサンローガン
プティート
人形

ジョナサンローガン
プティート
人形

婦人服・人形の店

表春日通り

TEL (0552) (33) 5413

マンドリンに関する文献は古今東西を問わず非常に少ない。ラニエリーがパリのデルグラープ社から刊行された音楽百科辞典の中にマンドリンの稿を書いているが、前々号に引続いて比較的知られていない部分を拾ってみる。

○イタリーに於けるマンドリンの進化 18世紀にはマンドリンの秀抜なヴィルトーゾ（名人）が現われたとは言いがたい。ソディー・フォケッティ・ヴィメルカーテ、及びクレモナの盲人とアダナされたヴァイラーティが他の奏者よりもぬきんでいたとしても、彼等の用いた、かなり幼稚な構造とむしろ金切声の音階を持った楽器が彼等に豊かな技量を示す事を許さなかった事は事実である。然しながら、その後マンドリンの製作方法は次第に喜ばしい進化を示した。ナポリのヴィナチャが楽器の型を大きくし、ネックを第7ポジションのA迄延長した。是が一般に採用され、又イタリー及び外国の楽器製作者に依って模倣されたナポリ型マンドリンのシステムであり、今日も尚多く用いられているものである。その調律法はヴァイオリンと同じである。

よるこばしい進化が次いでローマに起った。デ・サンティス兄弟、ルイーダ・エンベルガー、及びその7人の弟子がローマ型マンドリンを造る事によって、マンドリン製作術を完全に改革した。このローマ型マンドリンは現今銘器と考えられている。ナポリ型マンドリンとローマ型マンドリンとの技工上の相違はネックにあって、後者は前者より1オクターブ高いフレットを持ち幅せまく、一般に低音弦の方で高くなっている。これに加うるにいちじるしく力があり、カンタビレの楽節におけるヴァイオリンの音を想い起こさせる様な甘味を有する音声の質を附加して考えるならばこの偉大な芸術家（エンベルガー等）がアマーティ・グワリネリウス・ストラデヴァリウス等に比せられるべきであり、又彼等がその有名な祖先（ストラデヴァリウス等）によって作られた優れたヴァイオリンに比すべき楽器をマンドリン界にあたえたと考える事は誇張ではない。

かくして、楽器が完成されるに従ってヴィルトーゾが魔術の様に現出した。50年以前にはマンドリンのレペルトワールがほとんどなかったとしても、実際にテクニックに於いても、音楽的価値に於いても確かに興味ある作品があたえられていた。加えて、マンドリンはそのアッコールドとネックの長さなどがヴァイオリンのそれらに近似していた為にヴァイオリンの作品がはなはだよくマンドリンによく適合した。他方に於いて良き奏法は、かたい不愉快なトレモロを最巧な弓すかいによって出される音と殆んど混同される迄にすべらかな音に変ずる事が出来る。

これが、即ち、美しいローマ風の奏法の特長が、次の如き秀抜なヴィルトーゾをマンドリン界にあたえたのである。

いわく、コンティ（父）・カルラーテ・マンドゥーラ・フェローチ・クルティ・モレルリ・ベルトッチ・プランツォーリ・タルターリア・マグリニ・カルジョレッティ・マチョッキ・コンティ（子）及びイタリーの他の都市のナポリのロッコ・カラーチェ、ポローニアのブリアルディ、ミラノのレオポルド・フランチャ、フィレンツェのカルロ・ムニエルとルイーダ・ビアンキ其の他マルチェリ・ガルガーノ・アリエンソ・メツァカーボ・シルヴェストリ・コッタナらびにアントワープのフランス・デ・グルノー・バンドヴェルド、リージュのスティエノン及びベルギーに於ける多くの人々がコンセルティスト（独奏家）の群を形成している。そして之等の人々のプログラムは第一流のヴァイオリンニストの難曲をふくんでいる。

旅 館 御 宴 会 ・ 御 婚 礼

喜 久 竹

甲 府 市 中 央 二 丁 目 5 - 27

日 観 連 合 会 員

TEL 甲 府 (0552) 35-6321 (代表)

設 駐
備 車
あ 場
り の

憩いのひと時をあなたのロビーで

純 喫 茶

シャルコン

トヨタレンタカービル2階

甲 府 駅 北 口 通 り

TEL (53) 7020

◇ 沿 革 ◇

- 昭和36年11月 小林伸吾氏等精密工学科有志11名により発足。
- 昭和38年11月6日 第一回演奏会（於・学内）
・ドミノ ・小兵士の行進 ・フォスター歌曲集
・ボルガマーチ ・郷愁 その他
- 昭和39年11月8日 第二回定期演奏会（於・山梨県民会館）
OUVERTURE IN D-DUR…………Konrad Wölki
LA VALLEE MAUDITE ……………Menichetti
ミレーナ……………Maciocchi
山 狭……………川崎貞利
その他
- 昭和40年11月6日 第三回定期演奏会（於・山梨県民会館）
オラッチオとクリラッチオ兄弟…………D. Cimarosa
ト調のシンフォニー……………G. Domenico
序曲レナータ……………Lavitorano
小交響曲 マンドリンの群れ…………C. A. Bracco
その他
- 昭和41年5月28日 県民会館10年祭り賛助出演
オラッチオとクリラッチオ兄弟…………D. Cimarosa
山 嶽 詩……………M. S. Salvetti
ミレーナ……………Maciocchi
序曲レナータ……………Lavitorano
その他
- 昭和41年11月12日 第四回定期演奏会（於・山梨県民会館）
バグダッドの太守……………F. A. Boieldieu
組曲 山の印象……………鈴木静一
ハンガリア舞曲 第5番, 第6番…………Joh. Brahms
その他
- 昭和42年11月5日 諏訪特別演奏会（於・北沢会館）
- 昭和42年11月11日 第五回定期演奏会（於・山梨県民会館）
OUVERTURE IN A-DUR…………Konrad Wölki
ローマ・トリノ……………D. Giovanni
小交響曲 マンドリンの群れ…………C. A. Bvacco
その他
- 昭和43年11月9日 第六回定期演奏会（於・山梨県民会館）
Eine Kleine Nachtmusik ……………W. A. Mozart
Bizet Klanken ……………arr by J. Linard
Loreley Paraphrase……………S. Ranieri
序曲 水車小屋の乙女たち…………M. Maciocchi
地獄谷の一夜……………F. Jullian
序曲 レナータ……………H. Lavitrano
その他
- 昭和44年6月22日 都留演奏会（於・都留市民会館）
OUVERTURE IN A-DUR…………Konrad Wölki
漁村の一夜……………中野二郎
序曲レナータ……………H. Lavitrano
その他
- 昭和44年11月8日 第七回定期演奏会（於・山梨県民会館）
過去への尊敬……………L. M. Vogt
悪魔の囁き……………M. Maciocchi
OUVERTURE IN H-MOLL ……K. Wölki
組曲 人 魚……………鈴木静一
その他
- 昭和45年10月24日 静岡演奏会（於・静岡県民会館）

書
類
・
物
品
棚

オ
カ
ム
ラ
・
イ
ト
ー
キ
の

NO.1
に
使
い
よ
い

…………… スチール家具と事務機 ……………



正直堂

本社 甲府市中央二丁目（八日町通り）

TEL (33) 9158

ショールーム 本社前ゆもとビル内

NO.1
に
鮮
明

ミ
ノ
ル
タ
電
子
コ
ピ
ー

◇ クラブの近況 ◇

1969年

12月21日 部内発表会（県立女子短期大学講堂）
クリスマスコンパ

1970年

1月18日 白樺湖スキー・スケート大会

3月6日 第8期卒業生追い出しコンパ

4月4日～9日 春季合宿（河口湖常在寺）

7日 部内発表会
「イギリス組曲第五番、第六番」「アラビア風綺想曲」
「岸辺に立ちて」「想う夜」等

4月17日 オリエンテーション
「魔女の谷」「ハンガリア旅情」他

18日 歓迎演奏会（工業会館ホール）
「組曲 山の印象」「ペルシャの市場にて」
「Ouverture D-dur」「ナポリ」等

29日 新入生歓迎ハイキング（清里～飯盛山～野辺山）

5月31日 山梨大学大学祭 音楽喫茶「あざみ」開催
～6月1日 ｸﾞ ﾏﾄﾗｸｼｮﾝ（ロシア民謡集）

6月28日 山梨大学チャリティー音楽会
「組曲 山の印象」「ムーアのグラナダ」
「イスパニアカーニ」他

7月4日 部内発表会
「前奏曲 第一番、第二番、第三番」「入江のたより」
「二つのメヌエット」「はたんきょうの樹の下」他

7月12日 山梨県マンドリンサークル連盟合同発表会（県立女子短期
大学講堂）

7月13日～15日 一年生強化合宿

8月31日～9月11日 夏季合宿（小室山妙法寺）

9月5日 部内発表会
「ソナタホ短調」「メヌエット第一番、第五番、第六番」
「アストリアス」「愛のよろこび」「東洋の夢」他

10月11日～14日 秋季強化合宿（河口湖梨ノ宮温泉）

10月24日 静岡演奏会（静岡県民会館ホール）

11月1日 録音（工業会館ホール）

11月7日 第8回定期演奏会



比留間先生、飯島先生を囲んで（夏の合宿）

許 山 胃 腸 病 院

甲府市中央一丁目12-6 TEL 33-5107(代)

制服学舎のシンボル

軽やかに装う秋のスタイル

中央堂

本舗 中央五丁目2-31

TEL ☎ 3770-3771

仲見世ショッピングセンター

TEL ☎ 5909

おいしく安く

うなぎの栄養で健康を

うなぎの店

「愛」

うなぎ重 350円

1級正一合 100円

ビール(大) 150円

お二階も

御利用下さい

甲府市オリオン街

TEL (33) 7316

常磐ホテル

甲府市湯村温泉 TEL 甲府 (22) 1301代表

石和温泉 トキワホテル TEL (いさわ) 4175
4176

下部温泉 常磐別館 TEL (しもべ) 50番

箭本外科

院長 箭本 巖

甲府市北口三丁目1-1

TEL (35) 3532-3



編集後記



今年には静岡演奏会のパンフを兼ねたので例年に比して定演のパンフに着手するのがおそかった。何とか去年、一昨年のもので違ったものをもとに思ってみたものの、いざできあがってみると、あまり変わりばえのないものとなっていた。パンフの内容は決まっている。しかしそれをいかに新鮮に感じさせるかが、我々パンフレット係の仕事であるが、短い期間ではあったが係一同それなりの努力はしたつもりである。いろいろ不備な点もありますがお気づきの点やいたらない所がありましたらご批判願います。

最後になりますが、パンフ作成にあたり御協力して下さいました諸先生方、広告店主の皆様から感謝致します。

表紙デザイン……………吉田保博

編集・製作……………パンフレット係

内山恵一
大宮康典
貞弘丈佳
赤羽巧吉
古屋和美
吉田保博
西沢昭
布引英夫

印刷……………甲府・温故堂印刷株式会社

洋菓子とレストラン

全日本洋菓子工業会員

早川ベーカリー

甲府市中央一丁目
TEL (35) 1515~6

●現代人の常識
ギターをひこう

ゼンオンギター

◆ZG (クラシック)
◆ZGG (ガット)
◆ZPG (ピック)



ゼンオン 手工品ガット ギター

◆中手板 監製
◆黒沢常三郎 監製

NHK教育テレビ
「ギター教室」

阿部保夫先生監製

日本人の手に合ったギター
阿部ガットギター-65-63

A G . 6 F 6,000円
A G . 65 . 63 S 8,500円
A G . 65 . 63 D 15,000円



楽器は全音 株式会社 全音 東京新宿区東五軒町25
楽器も全音 会社 全音 東京・大阪・福岡・札幌

華麗な音の手工芸品

よいピアノが生まれる秘密は、
ひとつひとつの工程にあります。

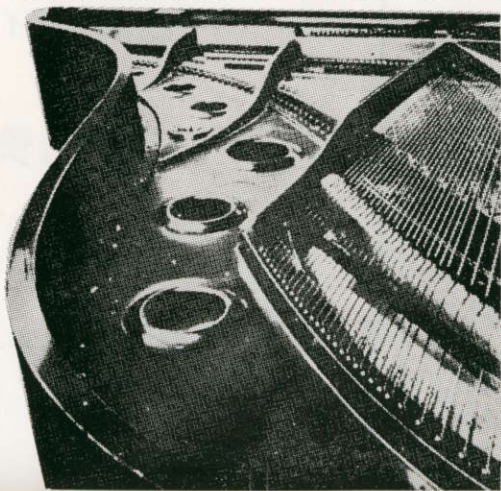
デアパソン

Ⓜ 浜楽商事株式会社東京営業所

東京都中央区銀座1-5(大日本図書ビル)

電話(561)7085・7090

本社 浜松市寺島町200/TEL (54) 2131代表
営業所 東京・大阪・名古屋・福岡・浜松 山梨代理店 飯島楽器



【レコード&テープ】

県下唯一
全レーベル特約店

- デアパソンピアノ
- ステレオ
トリオ・パイオニア・コロムビア
- テープレコーダー・カセット・ビデオ
アカイ・アイワ

レコード
テープ
委託製作

～◇手工品ギター・マンドリン◇～

音の専門店

イイジマ楽器

甲府オリオン通り TEL (33) 3345